大学生を対象とした高校の運動部活動に対する不満と退部要因

―退部者減少のための方策に向けて―

杉山愛來　（　埼玉大学　）

１．目的

本研究の目的は、高校の運動部活動の満足度（不満度）と退部理由を調査することにより、生徒がどこに満足し、どこに不満を感じているのかを明らかにすることであった。

２．研究方法

1）被調査者：高校時代に運動部活動に所属していた大学生 271 人（研究 1）、運動部活動を退部した経験がある大学生 17 人（研究 2）から回答を得た。

2）調査方法：稲地・千駄（1992）の研究で用いられた質問項目を参考にし、本研究の質問項目を作成した。Microsoft Forms を用いて調査した。

3）分析方法：2 要因分散分析などを用いて、統計的にデータを分析した。

３．結果と考察

1）研究１：大学生を対象とした高校時代の運動部活動の満足度に関する調査

⑨活動時間や活動頻度、をはじめ、13 項目で継続者と退部者間で満足度に有意差が認められた。各質問項目において、継続者の平均値が高かった項目は、⑰レギュラーである/試合（競技会）に出場していた、⑱目標があった、④部員同士の人間関係、だった。平均値が低かった項目は、②顧問の指導、⑫余暇の時間、㉓他の部活動の友達と遊べていた、だった。退部者の平均値が低かった項目は、⑭自分の意見が受け入れられていた、⑬顧問や部員から平等に扱われていた、⑪勉強との両立、⑫余暇の時間だった。また、自由記述のカテゴリー分けでは、「顧問」「他との両立」についての記述が多かった（表 1）。

これらの結果から、継続者は目標を持って試合や競技会に出場しており、部員同士の人間関係が良好だったことが明らかになった。退部者は自分の意見が受け入れられず不平等さを感じていたことが明らかになった。また、継続者、退部者共に、部活動により他の時間が圧迫されてしまっていることに不満を感じていたと推測される。

2）研究２：高校時代に運動部活動の退部経験がある大学生を対象とした退部理由についての調査

各質問項目において平均値が高かった項目は、②顧問の指導が合わなかった、⑪練習が自分に合っていない、㉑勉強との両立ができなくなった、㉘他に興味のあることがある、だった。

この結果から、退部に関係している主な要因として、「他との両立」と「顧問」が挙げられる。

４．結論

本研究では、不満に感じている点も退部理由も、「他との両立」と「顧問」が大きく関わっていることが明らかになった。運動部活動の顧問は、活動時間や活動頻度など、部活動の運営について見直し、スポーツを好きな生徒が退部することがないように考えていく必要がある。

表 1　満足度に関する自由記述のカテゴリー分け

大カテゴリー	小カテゴリー
顧問（23）	態度（8）
	指導がない（7）
	指導内容（6）
	不祥事（2）
他との両立（21）	余暇（8）
	生活習慣（7）
	勉強（6）
怪我・体調不良（6）	休めない・休みづらい（4）
	怪我をした（2）
部員の雰囲気（4）	
活動の少なさ（4）	
その他（3）	